

FLS（骨折リエゾンサービス）委員会

整形外科 部長 西井幸信

委員会概要

FLS（骨折リエゾンサービス）委員会はこれまで骨粗鬆症に対して行ってきた骨粗鬆症リエゾンサービスに加えて、骨折後の二次骨折予防として次の骨折を起こさないようにする目的とした骨折リエゾンサービス（FLS）臨床スタンダードに基づいて、当院でも他職種によるFLSメンバーの活動が2022年6月から行われるようになり、その後承認を受けて委員会として設立されました。FLS臨床スタンダードは骨粗鬆症財団、日本整形外科学会、日本骨折治療学会、日本臨床内科医会、日本老年医学会、日本運動器看護学会、日本運動器理学療法学会をはじめとする多数の学会から支持されており、二次骨折予防は高齢化社会における健康寿命の点で重要な課題の一つになっています。

委員会活動としてはFLS臨床スタンダードのスキームに基づいて多職種による院内プロトコルを作成して大腿骨頸部骨折患者に対する二次骨折予防に対する取り組みを委員会として支援しています。結成当初は毎月委員会を開催していましたが、現在は3ヶ月に1回の開催として、これまでの集計を行い、関連施設への情報提供を行うとともに、FLS活動における問題点を抽出し、FLSの修正を行っています。

当院では年間200から300例の大腿骨頸部骨折患者の手術治療を行っていますが、FLS活動開始後前には大腿骨頸部骨折治療前に骨粗鬆症の治療を行っていなかった患者に対して退院時に骨粗鬆症の治療を開始されたケースは5%未満でしたが、FLS活動を開始してから84.2%に骨粗鬆症の治療が行われるようになってきました。しかし、術後4ヶ月時点での治療継続状況について調査したところ、治療継続できていたケースは63.5%に低下していました。その原因に様々な要因があると推察されますが、関連施設、かかりつけ医との連携、情報共有を深める必要性を感じています。

大腿骨頸部骨折地域連携パスとの情報共有

すでに稼働している大腿骨頸部骨折地域連携パスミーティングで地域連携パス登録いただいている施設にも当院でのFLS活動について報告を行いました。

学術発表・講演会等

VHJ整形外科部会主催のweb講演会で当院におけるFLSの発足、活動について講演するとともに、FLS活動に関連する学会である日本脆弱性骨折ネットワーク（FFN）学術集会において当院のFLS活動について発表しています。